

若事研広報

No. 1 8 9

編集・発行

岩手県公立小中学校

事務職員研究協議会

総務部

平成26年3月25日

県事務研セミナー 平成26年1月8日(水) 会場：プラザおでって

退職準備セミナー等で忙しい中、会員外の方を含め117名の皆さんに参加いただきました。実際の事例をもとに、背景や訴訟にまで至った原因の考察など先生のお話に引きつけられ、2時間の講演時間があっという間に終了しました。

「スクール・コンプライアンスと学校事務職員」

ー学校観の変化訴訟リスクー

日本女子大学 教職教育開発センター 教授 坂田 仰 氏

学校に勤務するようになり二十数年、自分自身危機意識が足りてなかったことをまずもって反省しました。振り返ってみると、かなりヒヤヒヤする事例もあったように思います。自分も教育裁判の当事者になりうるのだと思いきらされ怖くなりました。

自分の子どもの利益だけを望む保護者、学校に無関心な地域住民が増え、学校を取り巻く環境も大きく変化しています。学校に勤務する私たちは、保護者・地域住民の目線を常に意識しながら学校運営にあたらなければならないとあらためて思いました。

たいへん有意義なご講演でしたので、事務職員のための研修で終わらせるのはもったいないと思いました。ぜひ管理職や教員にもふれてほしい内容だと思いました。（参加者より）

「これでいいのだろうか？みんなで話し合っていかなければならないのでは？」と感じることはあったのに、そのまま過ぎてしまい問題がどんどん大きくなっていく。このようなことは何度かあったな…と思いました。

必要なのは「このままではまずい」と判断すること、小さいうちに問題の芽を摘むこと。そのためにはケース会議等が重要である。そして、子どもたちに愛と情熱を持って接し、保護者や地域の方々の信頼を得ようとがんばっている先生たちを守るために何ができるのかを考え、適切なアドバイスができる事務職員、管理職、先輩であってほしいとお話がありました。

本当に講演時間が短く感じられ、良いセミナーだったと思いました。（参加者より）



全事研セミナー 平成26年2月14日(金) 会場:川崎市教育文化会館

記録的な大雪の降る中、全事研セミナーが行われました。岩手県からは99名、全国から1,200名を超える参加がありました。講演の要旨を簡単に報告します。

講義Ⅰ 文部科学省行政説明

文部科学省初等中等教育局財務課 課長 池田 貴城 氏

平成26年度文部科学関係予算(案)の文教関係予算のポイントについて

区 分	平成25年度 予 算 額	平成26年度 予算額(案)	対前年度 増△減額	増△減率
文教関係予算	4兆661億円	4兆964億円	[408億円] 302億円	[1.0%] 0.7%

【25年度補正予算案:2,831億円】

※上段[]書きは、給与臨時特例法の終了に伴う増や復興特別会計繰入の減等の影響額(△106億円)を除いた場合

我が国の将来を担う次世代の育成こそが国づくりの礎であり、第2期教育振興基本計画等に基づき世界トップレベルの学力、規範意識、歴史や文化を尊重する態度を育むため「教育再生」を実行します。

○そのため、以下の施策に重点化

- ・教育課題に対応した教職員等指導体制の整備や道德教育の充実などによる、社会を生き抜く力の養成
- ・幼児教育無償化に向けた段階的取組や高校生等への修学支援、奨学金事業の充実など安心して教育を受けることができる学びのセーフティネットの構築
- ・グローバル人材の育成など、未来への飛躍を実現する人材の養成

幼保・小中・高・特支学校の連携がとても重要であると思っています。学校以外の地域・外部の方の力を借りながら(あくまでも教職員が中心となって)、学校運営を進めてほしい。教職員が一丸となって学校全体のチーム力、教育力をアップして欲しいと思います。

講義Ⅱ 「地域とともにある学校づくりと人材育成」

一般財団法人 公共経営研究機構 理事 関山 祐介 氏

少子高齢化が進み、日本社会は大きく変わってきています。消費人口、生産人口が減少し、モノが売れない・モノが作れない社会となってきています。社会保障費も莫大にかかります。

そのような社会に対する大人たちの苛立ち、焦燥感が子どもに多くの影響を与えています。大人たちは方針や目的を見失い、「志」を持ってなくなっています。大人たちが生きていくのに必死となり、子どもの姿を見ていないのです。小学校高学年になると塾に通わせ、有名大学に入ればそれで良いという認識を持っています。今の子どもたちは、男の子も女の子も一緒に泥だらけになって遊ぶこともありません。殴ったり殴られたりすれば痛いし、大げがをすることを知りません。人への批判や批評も限度を超えたり、集団でやったりすればどうになってしまうのかということも知りません。お金の大切さも知りません。このようなことを子どもに考えさせる機会がないのです。

その結果、社会性がなく人間関係の調整のできない大人たちが増加しています。ひもが結べない・配慮ができない・人と話ができない、けれどもPCやスマートホンの扱いは得意という人が多くなっているのです。子どもから大人まで、本を捨てて、ゲーム・LINEの社会…これでは将来の日本は良くなるはずはありません。弱者を切り捨て、自分だけがお金のある良い生活を送ることができればよいと教えていけば、子どもたちはいずれ、そう育てた親にも同じように対応するようになります。つまりは報復されることになってしまうのです。

子どもたちは保護者だけのものではありません。社会や地域全体が、未来を担う子どもたちを育み、大切に育てていくのです。社会に出て通用する主要な知識は、中学校までしっかり勉強すれば十分であると思っています。学校はもっと自信を持ってほしいと思います。社会性を教えることが大事であり、保護者に問題があれば、みんなで代わりとなって子どもたちを支えていきましょう。

元々、学校は地域の単位であり、イベントや催し物、住民の会議の場でした。地域の将来のために子どもたちをよく見て、将来を託そうと考えていたのです。子どもを育むことは地域振興に直結するのです。

学校も組織であることには変わりはなく、財務・会計・コスト、広報体制、コミュニケーション力、情報収集や分析力、経営マネジメント力はとても大事です。学校が地域とともにあるためには事務職員の力が必要となるのです。地域によってそのやり方は違ってきますが、自分のこととして考え、悩み、動き、話し合うことで将来は見えてくるのです。

まとめにかえて・・・

「子どもたちの満面の笑顔は、私たち大人の希望」

「子どもたちの満面の笑顔で溢れた地域を取り戻そう」

「大人の小理屈より、ストレートな子どもにも分かる理屈が正しい」



【ブータンの子どもたち】

- ・物質的には貧しいけれど、心は豊か
- ・みんなで、小さな子どもたちの面倒を見る。
- ・学校の先生、お医者さん、パイロット、科学技術者になりたいという。
- ・そして、海外に留学しても、ブータンに戻って働き、いっしょに住みたいという。

講義Ⅲ 「学校組織を活性化する人材育成の在り方」

国立大学法人 鳴門教育大学 大学院学校教育研究科 教授 久我直人氏

今日のキーワード ⇒ 「つなぐ」

教職員をつなぐ、バラバラをつなぐ、職と職をつなぐ・・・

- 個人の持つ力（属人のもの）を組織で共有することは、大きな「資源」となります。
- 学校になくなくてはならない存在である事務職員に求められる機能
教育活動の軸の生成と活性化、学校運営の焦点化・重点化
→これらをつなぎ合わせる事務職員の機能…予算の面で管理職へのアドバイス行い、書類を整備。
管財の面では管理職との連携により役割をすみ分け、効率的に対応。
- 学校事務の共同実施と事務職員の役割
共同実施の作業を通し、ベテラン事務職員が持っているノウハウを若手に伝授することは、構成員の組織感覚（協力・調整力）の育成・求められる支部運営の経営感覚の育成につながっています。サポート体制による相互扶助は若手の育成につながっています。組織で対応するという事は、人材育成につながっているのです。
- 共同実施実績の履歴を残すことの意味
教職員の事務の共同実施について理解が進みます。信頼も高まります。また、事務職員の努力が業績として可視化（見える形にすること）されると、教育活動の充実へ貢献したという自負と効力感が生まれ、意識がつながっていきます。
- 各地区の実態に応じた共同実施の展開
若手や臨時事務職員が多いへき地では「適正化」と「OJT人材育成」を目的にじっくりと、ベテランが多い市街地区では「効率化」「経営参画」を等、一つ一つ確実に、慌てずに実施してほしいと思います。無理せず、長期計画で取り組んでほしいです。…慌てず、焦らず、怠らず

第2回支部代表者会 平成25年12月6日(金) 会場：プラザおでって

過日行われた支部代表者会では、各部の事業報告と今後の予定について協議、確認されました。

1 総務部

○小中高等学校事務職員連絡協議会での話題について

- ・ジョブローテーションについて
- ・6級格付けについて

2 研修部

(1) 第44回岩手県公立小中学校事務研究大会

- ・アンケートの分析について
- ・隔年開催について→毎年開催することのメリットの方が大きい

(2) 研究大会計画

- ・分科会発表支部について

3 研究部

(1) 研究

- ・アンケート調査について
- ・「いわてのグランドデザインーみんなのできる実行策一」について

(2) 調査

- ・ジョブローテーションにかかる異動調査について
- ・「学校事務の手引き」の改訂について

4 その他

(1) 50周年記念誌発刊計画について

(2) 各支部の状況



平成26年度 研究大会のお知らせ



『第46回 全国公立小中学校事務研究大会静岡大会』

—子どもの豊かな育ちを支援する学校事務—

大会テーマ「学校マネジメントと人材育成」

しずおか ときづくり ものづくり 人づくり

期日：平成26年8月6日(水)～9日(金) 会場：静岡市清水文化会館(マリナート) ほか



『第20回 東北地区公立小中学校事務研究大会青森大会』

「教育活動を支えるきめ細やかな学校事務」

～学校事務の共同実施を含む学校間連携を推進し、

これからの学校事務のあり方を探る～

期日：平成26年10月2日(木)～3日(金) 会場：青森市民ホール ほか



1年間ご協力ありがとうございました。

平成26年度も、どうぞよろしく願いいたします。